

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長  
( 公 印 省 略 )

### 病害虫発生予察技術情報について

令和 3 年度病害虫発生予察技術情報第 3 号を発表したので送付します。

## 令和 3 年度 病 害 虫 発 生 予 察 技 術 情 報 第 3 号

### 冬春期野菜の定植時および生育初期の病害虫防除対策について

ウイルス病を媒介するアザミウマ類やアブラムシ類、コナジラミ類をはじめ、ハモグリバエ類などによる生育初期の被害は、その後の生育・収量に大きな影響を及ぼすため、防除対策を徹底しましょう。

#### 1 生態

(1) ミナミキイロアザミウマ (図 1、2)

本種は灰白色斑紋ウイルス(WSMoV)を媒介する。発病すると、葉では明瞭なえそ輪紋や退緑斑紋(図 3)を生じ、株は萎縮し、生育不良となり収量が低下する。

(2) ワタアブラムシ (図 4、5)

本種を含むアブラムシ類は、モザイク病の病原ウイルスであるキュウリモザイクウイルス(CMV)等を媒介する。発病すると、葉に黄色の斑点を形成し、次第にモザイク症状を呈する(図 6)。

(3) タバココナジラミ (図 7、8)

本種はトマト黄化葉巻ウイルス(TYLCV)を媒介する。発病すると、上位葉の黄化、葉巻、などの症状がみられる(図 9)。

(4) ハモグリバエ類 (図 10、11)

雌成虫は腹部の産卵管で葉に穴を開け、しみ出る汁液を摂食し、葉内に産卵する。孵化した幼虫は葉肉を食害しながら移動し、線状の食害痕を形成する(図 12)。

#### 2 防除対策

(1) 定植前に、病害虫の発生源となるほ場内外の雑草を除去する。また、ほ場周辺の管理されていない、または放置されたウリ科作物等は、ウイルス病の感染源となるので定植前に処分する。

(2) 露地栽培では、防風ネットの設置や、防虫ネットによるトンネル被覆により害虫の飛来侵入を防止する。カボチャ栽培では、防風対策をかねてほ場周辺をネットやソルゴーで囲うことや、シルバーテープを場内に張ることでアブラムシ類有翅虫の飛来を防止する。

(3) 施設内への飛来侵入を防ぐため、出入口は開放せず、施設の開口部には目合い 0.6 mm以下の防虫ネットを張る。

(4) 近紫外線除去フィルムや施設周辺への光反射シートの設置も害虫の侵入防止に効果的である。

(5) 定植時には、害虫が寄生していない健全苗を用い、病害虫の発生を防ぐため粒剤を施用する。

(6) 定植後、ウイルス病等に感染したと疑われる株を発見したら、速やかに寄生する媒介虫を薬剤防除し、株を抜き取り、ビニール袋などに入れ、ほ場外に持ち出し処分する。

#### 3 防除対策上注意すべき事項

(1) 黄色粘着テープ等により早期発見に努める。

(2) これらの害虫は薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、薬剤抵抗性の発達しにくい気門封鎖剤や微生物農薬を使用する。

(3) 物理的防除や耕種の防除を含めた総合防除対策の徹底が必要である。

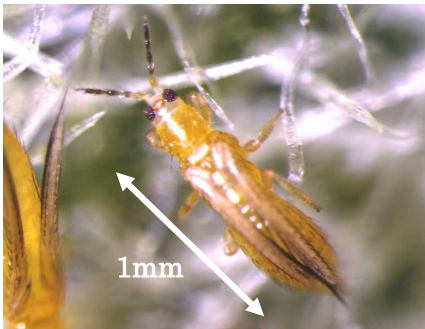


図1 ミナミキイロアザミウマ成虫



図2 ミナミキイロアザミウマ幼虫



図3 灰白色斑紋病の症状



図4 アブラムシ雌成虫、幼虫



図5 アブラムシ有翅虫



図6 モザイク病の症状



図7 タバココナジラミ成虫



図8 タバココナジラミ幼虫



図9 トマト黄化葉巻病の症状



図10 マメハモグリバエ成虫

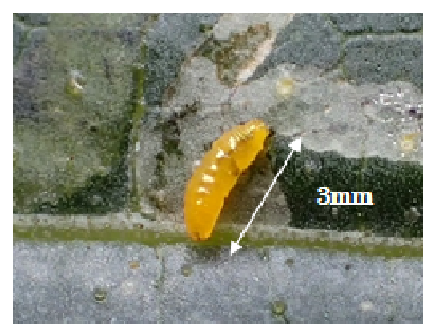


図11 ハモグリバエ幼虫



図12 ハモグリバエ幼虫による食害

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL : (本所) 098-886-3880、(宮古駐在) 0980-73-2634、(八重山駐在) 0980-82-4933

ホームページアドレス : <http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichubojjo/index.html>